

【Ⅲ. 貴健康保険組合の組合員への保健指導、意識啓発についてお尋ねします】

問9 保健指導の実施方法についてお教えてください。(複数回答可)

被保険者について	
これまで ⇒	1 健保自前 2 事業主 3 外部委託 (保健指導機関等) 4 健保連共同設置保健師 5 未実施
2008年度以降⇒	1 健保自前 2 事業主 3 外部委託 (保健指導機関等) 4 健保連共同設置保健師 5 未定
被扶養者について	
これまで ⇒	1 健保自前 2 事業主 3 外部委託 (保健指導機関等) 4 健保連共同設置保健師 5 未実施
2008年度以降⇒	1 健保自前 2 事業主 3 外部委託 (保健指導機関等) 4 健保連共同設置保健師 5 未定

問10 特定健診・特定保健指導への組合員の参加を促進する上で、健康意識を高める働きかけは重要であり、種々の意識啓発・動機づけのツールが研究開発されていますが、次のA, B, C, Dのそれぞれ4つのツールについて、①組合員への意識啓発ツールとして意味があるか (活用したいと思われるか)、②活用するとしたらどのような対象者が想定されるか (有効と思われるか) についてお答えください。なお、A, B, C, Dの4つのツールについては、同封したツールを参考としてご覧ください。

A 腹囲を自分で測るツール (メジャー)

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか →	有 無
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか (複数回答可)	
1 男性 2 女性 3 壮年層 (40・50 代) 4 若年層 (20・30 代) 5 すべての被保険者・被扶養者	
6 その他 ()	

B 味噌汁などの塩分濃度を自分で測るツール (スプーン)

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか →	有 無
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか (複数回答可)	
1 男性 2 女性 3 壮年層 (40・50 代) 4 若年層 (20・30 代) 5 すべての被保険者・被扶養者	
6 その他 ()	

C 日々の体重や食事などを自分で記録するツール (健康手帳)

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか →	有 無
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか (複数回答可)	
1 男性 2 女性 3 壮年層 (40・50 代) 4 若年層 (20・30 代) 5 すべての被保険者・被扶養者	
6 その他 ()	

D 生活習慣病や予防法をパソコンなどで自分で学べるツール (健康 e-learning)

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか →	有 無
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか (複数回答可)	
1 男性 2 女性 3 壮年層 (40・50 代) 4 若年層 (20・30 代) 5 すべての被保険者・被扶養者	

6 その他 ()

問 11 今後、研究開発すべき意識啓発・動機づけツールがありましたら、ご自由にご意見・ご要望等をご記入ください。

--

【IV. 最後に「特定健診・特定保健指導」について、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください】

--

以上で終わりです。ご協力有難うございました。

貴健康保険組合についてご記入ください。調査結果がまとまり次第、お送りさせていただきます。

貴健康保険組合の名称		
ご住所（本部）		
お電話番号／E-mail	お電話番号	／E-mail
ご担当者様のお名前		役職：

特定健診・特定保健指導に関する保険者アンケート
調査票（国民健康保険用）

【Ⅰ. 貴国民健康保険の概要についてお尋ねします】

問1 貴国民健康保険の被保険者数についてご記入下さい。(平成18年4月1日時点)

被保険者 () 人

問2 貴国民健康保険の職員数および保健師等専門職、システム担当者の有無についてご記入下さい。

職員数 () 人 → うち、専任 () 人 兼任 () 人
 保健師等専門職の有無 → 無 有 (⇒ 1 国保所属 2 衛生所管部課の専門職に協力が得られる)
 情報システム担当者の有無 → 無 有

問3 貴国民健康保険の健診(人間ドック・主婦健診、自治体・JA・商工会議所等健診を含む)の受診者数をお教えてください。(把握している範囲で結構です)

被保険者	人数	受診者数
30歳代	名	名
40歳代	名	名
50歳代	名	名
60歳代	名	名
70歳代	名	名

【Ⅱ. 貴国民健康保険の健診データの収集・管理についてお尋ねします】

問4 貴国民健康保険では健診データの収集・管理状況を把握されていますか。(複数回答可)

1 未把握 2 紙媒体保管 3 パンチ入力後電子媒体管理 4 電子媒体にて収集・管理

問5 現在、電子的にデータを管理・処理している国民健康保険にお伺いします。(○は1つ)

社会保険システムについてお教えてください。

1 外部委託 (ベンダー名:) 2 自国保開発

データベースシステムの種別

1 大型計算機 2 UNIX系システム 3 Windows系システム 4 その他 () 5 不明

データ処理(入力や検索)する端末の種別

1 大型計算機用端末 2 UNIX系システム 3 Windows系システム 4 その他 () 5 不明

システム利用形態(複数回答可):

1 通信で接続された端末だけ設置されており、データベースシステム本体はベンダー側にある

2 データベースシステム本体が自国保にある

3 複数国保で共用している

す。

貴国民健康保険の名称		
ご住所		
お電話番号/E-mail	お電話番号	/E-mail
ご担当者様のお名前		役職：

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
東京大学大学院医学系研究科 循環器内科/健康医科学創造講座/健診情報学講座			疾病予防サービスに対する勧告 (仮訳)	中央法規出版	東京	2007年	
古井祐司 (共著)	生活習慣病予防・管理のためのコンソーシアム		「ヘルスサポートの方法と実践」	東京大学出版会	東京	2007年	p. 215-219

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大江和彦	健診・保健指導プログラムにおける健診データ流通の標準様式	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 138	2006 年
大江和彦ほか	健康管理を支援する情報技術	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 150	2006 年
古井祐司	医療保険者の保健事業としての一次予防プログラムの実践 :HCC プロジェクト	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 70-71	2006 年
Hoshimoto, Nittami, Konishi, Ohbayashi, Murakami, Kubodera, Watanabe, Yamaguchi, Tanaka, Miyo, Yamamoto, Ohe	Nationwide Standard Electronic Health-Document-Exchange based on HL7CDA-Rel. 2 in the New National Health-Checkup-Program for Preventing Metabolic Syndrome in Japan	MEDINFO 2007			投稿中
古井祐司 (共著)	医療保険者による健診・保健指導の取り組み～先行事例より	平成 18 年度地域保健総合推進事業発表会抄録集		p. 169-170	2007 年

研究成果の刊行物・別刷

別添のとおり